# (1) 北と南の市民社会間連携に関する研究会記録

# 第1回研究会「パン・アフリカ的市民社会ネットワーク構築の現状」

# 【1. 実施枠組み】

日時 2007年7月11日 (水) 15:00 - 17:00

会場 独立行政法人国際協力機構 (JICA) 国際協力総合研修所 201AB

使用言語 日本語(逐次通訳つき) 当日参加者 27名(NGO関係者)

# 【2. 概要】

| 時間     | 項目  | スピーカー           |
|--------|---|-----------------|
| 14:45  | 受付開始  |                 |
| ~      |   |                 |
| 15:00  |   |                 |
| ~      | 開講挨拶  | 下澤 嶽氏(JANIC)    |
| 15:10  |   |                 |
| 15:10  |   | 勝俣 誠氏(明治学院大学国際  |
| ~      | グローバル化におけるアフリカ市民社会の役割   | 平和研究所)          |
| 15:30  |   | 1 18 91 2 4)217 |
| 15:30  | パン・アフリカ的市民社会ネットワーク構築の現状~  |                 |
| ~      | <br>  AU 市民社会サミット参加報告   | 吉田 美樹氏 (TCSF)   |
| 16:00  | THE TRUETS OF THE PARTY OF THE |                 |
| 16:00  |   | バフォ・アジェバゥワ閣下(駐  |
| $\sim$ | コメント  | 日ガーナ共和国特命全権大使)  |
| 16:15  |   |                 |
| 16:15  |   |                 |
| $\sim$ | ディスカッション  | 参加者             |
| 17:00  |   |                 |

# 【3. スピーカー・講師】

# ※50 音順

# バフォ・アジェバゥワ閣下: 駐日ガーナ共和国特命全権大使

【学歴】1965 年ガーナ大学地理学学士号取得、1966 年米国ミルウォーキー・ウィスコンシン州立大学教員、1968 年米国ミルウォーキー・ウィスコンシン州立大学地理学修士号取得(修士論文"2階級における小売業体系について")、米国インディアナ州立大学教員、1972 年米国インディアナ州立大学地理学博士号取得(博士論文"ルイズビル・ゲットーにおける社会経済地域")。

【職歴】1972 年アフリカ研究所研究員、ガーナ大学地理学部講師、1975 年ガーナ観光局取締役、1981 年国際ゴールデン・ヘルム観光賞受賞、1988 年英国ケント州エリス工科大学講師、1991 年英国ロンドン市ハックニー社会教育協議会アクセス・発達学部長、1993 年英国ロンドン市学習・技術開発局開発アドバイザーを経て 2002 年 2 月 21 日より現職。

アジェバゥワ大使は地理学の専門家であり、また教育の分野でも数々の著書がある。ケネディ男爵婦人が委員長を務める高等教育促進・資金支援委員会のメンバーでもある。アジェバゥワ大使には5人の子供がいる。

# 勝俣 誠氏: 明治学院大学国際平和研究所所長

1946 年東京生まれ。早稲田大学政治経済学部卒、パリ第一大学博士課程修了(開発経済学博士)。 ダカール大学法経学部、モントリオール大学客員教員等を経て、現在明治学院大学国際学部教授、 国際平和研究所所長。専門はアフリカ地域研究。著書に、『現代アフリカ入門』(岩波書店)、『アフ リカは本当に貧しいのかー西アフリカで考えたことー』(朝日選書)、『サハラのほとりーサエルの自然 と人びと』(共編著、TOTO 出版)、『グローバル化と人間の安全保障―行動する市民社会』(日本経 済評論社)など。訳書に、W・アーサー・ルイス『人種問題のなかの経済』(共訳、産業能率大学出 版部)、M・ボー『資本主義の世界史』(共訳、藤原書店)など。

# 下澤 嶽氏: (特活) 国際協力 NGO センター事務局長

大学卒業後、英国の CSV (Community Service Volunteers)の1年間ボランティアに参加。帰国後、日本青年奉仕協会、世田谷ボランティア協会を経て、1988年に(特活)シャプラニール=市民による海外協力の会の駐在としてバングラデシュへ。帰国後、1998年に同会事務局長。2002年7月に退職し、2006年7月より(特活)国際協力 NGO センター(JANIC)事務局長。平和構築 NGO であるジュマ・ネット代表。一橋大学大学院社会学部博士後期在籍、法政大学非常勤講師。

# 吉田 美樹氏: (特活) TICAD 市民社会フォーラム フェロー

政治学修士(パリ第 10 大学大学院)。フランス国立障がい者作業所・障がい者乗馬研究員、メドュサン・デュ・モンドパリ本部研究員、アイ・シー・ネット株式会社研究員等を経て、2006 年 10 月より(特活) TICAD 市民社会フォーラム(TCSF)でシニア・プログラム・オフィサーを務め、2007年 6 月より同フォーラムで海外ネットワーク担当として勤務、現在に至る。

# 【4. 講義内容詳細】

# 4-1: 開講挨拶 (下澤 嶽氏)

# NGO とネットワークについて:

- ・ [ネットワークの重要性] NGO は規模が小さく、多様であり、自治機能をそれぞれの内部に持ち合わせていることが特徴である。従って、大きな問題に取り組む上で、NGO にとってネットワークを構成し参加することは、必須課題である。
- ・ [ネットワークの種類] NGO ネットワークの性質は、2 つの視点から分類することができる。 すなわち、①そのミッションが包括的かそれともイシュー的かという視点、②存在期間が、持 続的かそれとも時限的か、という視点である。いずれの組み合わせでも、効果的な働きは可能 である。
- ・ [求められるネットワークのあり方] ただし、現在のグローバルな課題の深刻さや大きさを受けて、イシューが包括的で、存在期間が持続的なネットワークの必要性が強まっているといえる。

#### 日本社会とNGO:

- ・ [日本における NGO ネットワークの歴史] 日本では、政府が包括的・持続的な市民グループのネットワーク組織・連絡組織を率先してつくってきた経緯がある。市民の側から、主体的で自治機能をもった包括的・持続的なネットワーク組織が現れてきたのは 1980 年代以降である。
- ・ [日本における NGO ネットワークの現状] 包括的・持続的なネットワーク組織は、数えられる だけでも 40 以上存在する。 恒常的なものでも 14~15 のネットワーク NGO が存在すると言われ

ている。また、ネットワーク NGO 間の連携としては、1998 年 11 月に第 1 回ネットワーク NGO 全国会議が開催され、その後も定期的に開催されている。

# ネットワーク NGO のあるべき姿:

・ [果たすべき役割] ネットワーク NGO は、彼ら NGO の代表ではなく NGO の調整役であることを 自覚し、活動すべきである。舞台はつくってもよいが、自分で演じてしまってはいけない。自 分たちの思うように会員 NGO を動かすのではなく、会員 NGO のイニシアティブを活かしそれに 支えられることが重要である。

# ネットワーク NGO の課題:

- ・ [財政面における課題] ネットワーク NGO は、財政的基盤が弱くなりがちである。というのも、 NGO の大きな財源である個人からの寄付は、ネットワーク NGO の提供する中間支援サービスよ りも、どうしても直接支援サービスに偏りがちになるためである。
- ・ [経営理念における課題] ネットワーク NGO は、ややもすると官との連携に慣れすぎ、組織としての自律性を失ってしまう可能性がある。ネットワーク NGO の運営には、①正会員を得て、彼らから支えられること、②一定程度の自己資金をもつことで自立的な組織運営をすること、の2点が必要である。つまり、ネットワーク NGO として、確固たる「経営学」を持つことが重要である。
- ・ [今後の世界的連携について] 今後、日本以外のネットワーク NGO とどう連携していくかが重要になってきている。G8 サミット、TICAD、その他国際会議等、海外の組織との連携が求められる場が増えてきているためである。

# 4-2:発表 1「グローバル化におけるアフリカ市民社会の役割」(勝俣 誠氏) 市民社会について:

・ 現代アフリカの文脈において、市民社会には 2 つの意味がある。1 つは、ゴミ収集や診療所不 足などの地域の特定の問題に対して、地域の住民が立ち上がって「市民」となり、自分の家族 のためだけでなく、地域全体の利益を考えて対応する場合。もう1 つは、国家や市場、権力か ら距離をおける存在としての市民社会である。NGO は、政府サービスの単なる安上がりの補完 活動の代替主体とはならない、非政府団体であると同時に、非営利団体であることが重要であ る。

#### アフリカにおける市民社会活動:

- ・ 植民地時代は、アフリカ人にとって一部の都市特権層を除いて市民権が存在しておらず、圧倒的アフリカ人は義務だけ課せられ、権利は与えられなかった。市民社会の活動以前に、アフリカ社会の人権獲得への長い戦い、すなわち脱植民地化があった。たとえば、アフリカ大陸北端では、1950年代後半の独立運動は、宗主国からテロリスト活動として扱われた。国連で権利が認められ、ようやく1962年に独立が実現した。またアパルトヘイトの例では、アフリカ人、白人、インド人等が市民運動を行い、市民社会が形成されたことが、アパルトヘイト終結の一因となった。
- ・ 1980 年代以降、西アフリカでは市民社会が活発化した。構造調整政策によって小さな政府が謳われ、公共サービスが低下した。そこで、住民が市民として立ち上がったのである。そこに拍車をかけたのが、1980 年代後半から 90 年代初頭の政治の民主化である。構造調整政策による

経済自由化の強制で、公正な選挙を実現するための NGO が林立し、開発 NGO、緊急援助 NGO 等、多くの NGO が 1990 年代に誕生した。2000 年以降、NGO の役割として、以下の 4 つが顕著になった。1 つめは、公共サービスの劣化に対応するための NGO。2 つめが、農業環境保全関連の NGO。そして、3 つめが選挙関連の NGO である。4 つ目は、債務問題や世界貿易・フェアトレードの分野において、アフリカを取り巻く不公平な国際政治経済関係を是正しようと、南北問題のアドボカシー面で大きな役割を果たした。

# アフリカとアジアの市民社会ネットワークの可能性:

・ アジアとアフリカの NGO がネットワークを構築していける可能性は高い。1955 年のアジア・アフリカ・バンドン会議は両者の初めての出会いであった。アジアもアフリカも、自分たちの未来を自分たちで作ろうという精神があった。確かにこの出会いは政府間関係が中心であったが、今はアジア・アフリカの市民の間でそれを再度確認し、自分たちの夢を自分たちの手で実現できる社会を作る必要がある。国際的に、開発や政治の面で、アフリカ市民の意見をもっと謙虚に聞くという姿勢が求められる。

### アフリカと中国の事例:

- ・ 日本とアフリカの NGO 間連携は既に様々な事例とレベルがあるが、中国とアフリカ間はまだ難 しい点がある。中国の企業、政府、市民がアフリカ社会でどのようなことをしうるかを考え、 それを日本が協力・支援することが、東アジア全体にとってもプラスになるのではないか。
- ・ アフリカにおける中国のプレゼンスは増してきている。WTO に中国が加盟したことでも分かるように、貿易のルール上垣根が低くなり、それを中国はうまく利用してアフリカに入っていった。原料をアフリカから大量に仕入れ、製品をアフリカでさばくというルートを確立したのである。つまりここでもグローバル化の影響が見受けられる。
- ・ 同時に中国は、構造調整の 20 年の間、欧米諸国から国内改革の義務だけ課せられ、対等に扱われてこなかったアフリカ諸国指導者にとって、初めて自分たちを対等に扱ってくれた国と映っている。ただその交渉の透明さについては大いに問題は残っている。ただそれを持って中国の批判だけするのは現実的でない。現代中国では、自国の振る舞いが国際社会でどう見られているかを分析、相対化できるメディアや市民社会がまだ充分に育っていないことを考慮する必要がある。
- ・ 例えば、アジア・アフリカ市民ネットワークで、アフリカの砂漠化対策などの面で、中国は技 術を持っている。その技術を日本が財政的支援をするなど、今後連携を進める可能性もあるの では。中国側もアフリカと日本の市民社会と共に学びを共有できる。

# 4-3:発表 2「パン・アフリカ的市民社会ネットワーク構築の現状〜AU市民社会サミット参加報告」(吉田 美樹氏)

# AU 市民社会サミット参加報告:

- ・ AU 市民社会サミットとは、アフリカ連合(以下、AU)から CSO への連絡がなされる場であり、AU の通常会議で討議される議題(今回の場合は連合政府)に関するアフリカ市民社会組織(以下、CSO)の立場を明確にする場であった。実施団体は CIDO(African Citizens Directorate)と、AU の助言機関である経済・社会・文化委員会(Economic, Social and Cultural Council、以下 ECOSOCC)事務局である。
- ECOSOCC は CSO のネットワークである。2005 年 3 月に AU が立案し、市民の声を AU の意思決定

プロセスに取り入れる目的で発足した。臨時議会も同時に設立され、通常議会の選挙について検討された。その後、通常議会のメンバー(アフリカ CSO)の募集が開始された。本来は、臨時議会の閉会は 2007 年 3 月とされていたが、同年 12 月頃まで延期された。通常議会のメンバーは、募集後選挙を経て 150 団体選ばれる予定である。しかし、現在の応募は 35 カ国 250 団体であり、全 AU メンバー国から参加を得るという ECOSOCC の目標に達していないため、選挙が延期されている。また、アフリカンディアスポラの代表を ECOSOCC のメンバーに入れるという目標もあるが、そのプロセスが決まっておらず、これも選挙延期の一因となっている。

- ・ ECOSOCC 通常議会の構成団体は、各国より2団体、地域レベルで活動する団体10団体、大陸レベルで活動する団体8団体、各地域のアフリカンディアスポラ20団体、職権上メンバー6団体である。ECOSOCC の組織体制は、通常議会のほかに、通常議会から18団体が参加する常設委員会、AUの政策に対し助言を行うための分野別グループ(平和と安全、政治問題、インフラとエネルギー、社会問題と保健、人材科学・技術、商業と産業、農村経済と農業、経済問題、ジェンダーとその関連課題、分野をまたぐグループ(HIV/AIDS、国際協力、他機関との連携など))、およびCSOメンバーの能力を検証するための権限検証委員会である。
- ・ 今回は CIDO が呼んだ CSO のメンバー73 名が参加した。メンバーの選択基準は、AU の議題に沿った活動をしているか、資金リソースがあるかどうかであった。40 名以外は自費で参加した。ジェンダーに配慮した結果、参加者の半分が女性であった。
- ・ AU 市民社会サミットの議題は、1日目は①前回のプレサミット(2007年1月)以降の進展、② ECOSOCC とその選挙プロセス、③EU とアフリカのパートナーシップに向けた、政治的ビジョン・ 実質的アプローチを明確にするための戦略案(AU-EU Joint Strategy for Africa's Development)であった。2007年2月から構想が練られ、5月に草案ができあがっている。2007年12月にリスボンで開催が予定されているEU-アフリカサミットで、最終戦略が採択される予定である。2日目には、連合政府に関する独立討論会が行われた。3日目には、1日目の議事録の確認と、2日目の話し合いの結果をAU通常会議に提出するためにまとめた提言書の検討、が行われた。

### 大陸会議(Continental Conference)参加報告

- ・ 大陸会議の主催団体は、ガーナ・AU 市民社会連盟 (Ghana AU Civil Society Coalition) というネットワークである。このネットワークは、今回のイベントのためだけに 2007 年 4 月に形成された、短期間のアフリカ市民社会ネットワークである。33 の CSO から成り立ち、ほとんどがガーナの団体である。
- ・ 今回の会議への参加者は、30 カ国約 100 団体より約 150 名である。ほとんどが招待者であり、 渡航費や滞在費を支援されている。同会議の議題は、「21 世紀において加速するアフリカの統 一と発展:連合政府の可能性と課題」であった。

# その他の会合

- ・ 貧困削減のための世界的ネットワーク (GCAP) のアフリカ地域会合、「貿易と地域統合に関する GCAP フォーラム (GCAP Forum on Trade and Regional Integration)」では、経済・貿易に関する話し合いが行われた。
- パン・アフリカ市民社会ディベート (Pan African Civil Society Debate) が開催された。

# GCAP アフリカ概要

- ・ ECOSOCC が設立されていない現段階では、最も大きなアフリカの市民社会ネットワークである。 GCAP (Global Call to Action Against Poverty)の一環で、30 以上のアフリカ国別連合 (例: GCAP Kenya など) から成る。意思決定機関はアフリカ・ファシリテーション・チーム (Africa Facilitation Team) で、同チームは国別連合、国際 NGO、労働組合、宗教団体、ドナー機関の代表から成る。
- 事務局はセネガルの NGO、「African Network Campaign on Education for All (ANCEFA)」内に 置かれている。
- 出資団体はアクション・エイド・インターナショナル、オックスファム GB、オックスファム Novib、 国連ミレニアムキャンペーンである。
- ・ 活動方針は、アフリカおよび世界の指導者に、貧困・不平等の撲滅、また国連開発目標 (MDGs) 達成・突破の約束を守るよう要求することである。
- ・ GCAP アフリカを動員する多くのイベントを行っている。国別連合も、各国内でイベントを開催している。

# アフリカ市民委員会 (Civic Commission for Africa :C-CfA) 概要

- ・ アフリカ市民委員会とは、2007 年 4 月に発足したパン・アフリカ的市民社会ネットワークであり、国別代表 17 団体、アクター別代表 4 団体、オブザーバー団体 5 団体から成っている。国別代表とは、国内で同委員会に共感する NGO 複数から支持されている団体であり、その国内ネットワークを活用して国内 NGO の意見を取りまとめ、アフリカ市民委員会の議論の俎上にのせる。アクター別代表に関しては、アクター別の複数 NGO (女性など) の意見を、それらの NGO に支持される一つの団体がまとめ、アフリカ市民委員会の他の団体に伝えている。
- ・ 「南の市民社会の声」を国際舞台に反映させるメカニズムがそれまでなかったことから、タンザニアNGOスタッフが同委員会の設立を提唱した。それにTICAD市民社会フォーラムが賛同し、2007年1月の世界社会フォーラム(WSF)での議論、申請書審査を経て発足した。
- ・ アフリカ市民委員会の活動方針は、TICAD をメインターゲットとし、TICAD を通じて日本の政策、 他の G8 諸国の政策、およびアフリカ各国の政策に影響を及ぼすことである。
- ・ 活動目的は、TICAD および G8 サミットの開発支援政策に影響を与え、人々のためになるガバナンス (People-centered governance) を促進することである。
- 2007年のアフリカ市民委員会の活動は、立ち上げと組織体制の確立を経て、2008年のTICAD IV およびG8サミットに向けたアドボカシーペーパー「Voices of African Civil Society」を各国/アクター別団体と共に作成することである。

#### 各ネットワーク間の相違と連携

- ・ ECOSOCC: AU に市民社会の声を反映するために作られたメカニズムで、実際は 2008 年以降本格的に始動する予定である。
- GCAP アフリカ: 恒常的なアドボカシーのためのアライアンスである。
- ・ アフリカ市民委員会: TICAD をターゲットとしたアドボカシーのためのアライアンスである。 これらのネットワークはパン・アフリカ的市民社会のネットワークであり、相互連携が必要である。 アフリカ市民委員会の団体のいくつかは、GCAP アフリカや ECOSOCC (予定) にも入っており、連携 して 2008 年に取り組むことが確認されている。

# AU 通常会議での「連合政府」討議の背景と、市民社会の意見

- ・ 1963 年にアフリカ統一機構 (Organization of African Unity: OAU) が設立された。2002 年に OAU から AU へ移行したときも、アフリカの社会経済的統合を第一目的としていた。2005 年に連合政府に関する特別委員会が設立された。2007 年 1 月に連合政府に関する調査書が AU 通常会議で検討され、その後いくつかの市民協議が国レベルで実施された。
- ・ 今後の予定は、2009年までに連合政府を設立し、2012年までに連合政府の機能化とアフリカ合衆国の憲法基盤構築、2015年までにアフリカ合衆国の全体制を確立することである。
- ・ これに対するアフリカ市民の意見として、今回の各会議で出されたのは、連合政府の設立を支持する、というものである。これはアフリカのあらゆる問題に対応しうる機関になるだろうという期待があるためである。また、連合政府は人々の政府であるべきであると考えられている。大陸政府は大陸市民なくして成り立たず、アフリカ国家間移動で要求されるビザは撤廃すべきであるとの意見が出された。さらに、大陸統一は国家安全保障、領土不可侵、政治的意思の欠如により遅れているという指摘があったほか、各国元首はAU等の機関に権力と資金を渡すべきだという意見が出された。また、各国元首はサミット後、連合政府に関する市民協議を各国で行うべきである、人々への情報提供や市民協議プロセスを確定すべきである、といった意見や、市民社会組織は各国内で連合政府に関する情報を広め、討論を促進する義務があるという指摘、また AU 諸事に関する運営機関を国内で設立すべきだという指摘もなされた。地域経済共同体(Regional Economic Communities: REC)を強化し、REC 間連携を強めることの重要性も訴えられ、アフリカ諸政府は共通の経済政策を持つべきとの指摘があった。

### まとめ

- ・ 周縁化されていた社会グループのネットワークへの統合に関して、特に協調されていたのは、 児童・若者 (18~35歳)・ディアスポラなどである
- ECOSOCC の可能性:現在の最大パン・アフリカ的市民社会ネットワークは GCAP アフリカであるが、ECOSOCC 始動後は ECOSOCC が最大になる。
- ・ 2008 年に向け、GCAP アフリカとアフリカ市民委員会が連携しながら、ECOSOCC とも連動しつ つ、効果的な提言を行うメカニズムを形成していく必要がある。
- ・ アフリカ合衆国設立に向け、パン・アフリカ的市民社会ネットワーク(各国に一つある)が 重要な役割を担うであろう。

# 4-4:コメント (バフォ・アジェバゥワ閣下)

- ・ アフリカの開発に関する話題について、これほど多くの日本の皆様に参加して頂いていること を感謝したい。特に、資金的限界のある中でアフリカに携わっている皆様に感謝する。
- ・ アフリカ問題については、かなり以前から問題解決のための戦略がたてられていたにも関わらず、いまだ解決できていない。政治的意志の欠落、もしくは根が深すぎる。
- ・ 今日発表されたように、様々な団体が様々なネットワークを構築しており、これらのネットワークに関与している人々の声を聞く必要がある。
- ・ 日本の市民の皆様に、アフリカの問題をアフリカ外交団と一緒に考えて頂き、2008年のTICAD IV と G8 サミットに向けたメッセージを発信したい。

# 4-5: ディスカッション

# ■フロアからの発言1

・ 日本の報道では、アフリカ合衆国構想は現実的ではないという意見があるが、どのような感触

か。

#### □吉田

・ ガーナ出張時には、市民レベルでは盛り上がりを見せていたが、アフリカ各国の首脳は大変積極的というわけではない印象を受けた。サミットで出されたアクラ宣言の中では、次にアフリカ合衆国政府と各国政府のあり方を考えるという話が出されていたため、それが議論されれば現実味が出てくる可能性はある。

#### ■フロアからの発言2

・ ガーナ大使への質問。アフリカ連合の構想は、ガーナが最初に提唱したという歴史的経緯がある。その点について、補足があれば伺いたい。

### □ガーナ大使

ガーナ初代大統領エンクルマの時代に構想が提唱された当時は、アフリカの殆どの国がまだ独立していなかったために、妄想のように受け取られた。最近その構想が再度脚光を浴びている。
 一市民の視点から申し上げると、この構想の妥当性については全アフリカ市民に投票を持って聞くべきだと考える。

# ■フロアからの発言3

・ ガーナ大使への質問。市民社会が AU に働きかけを行うということについて、どのようにお考え になるか。

#### □ガーナ大使

・ 大いに歓迎したい。市民社会は政府よりも、メッセージを人々に伝えるという意味では非常に 有効な働きをしている。また市民自身も有権者であり、有権者は政策を作っている。また、日 本の有権者との関係に注目すると、アフリカの政策に日本がコミットしていくということであ れば歓迎したい。

# ■フロアからの発言4

・ アフリカ域内でのビザ撤廃というアイディアが発表されたようだが、それに関連して。ヨーロッパでは、学生達の移動が頻繁に行われた結果、全ヨーロッパ市民としての意識が生まれたと考える。今回の一連の会議では、青少年の参加率はどのくらいだったのか。

#### □吉田

・ ユースのネットワークはかなり数があり、会議への出席も多かった。AUが主催したイベントにも呼ばれていたほか、ECOSOCC は 35 歳までのユースを 50%まで出席させるということだった。 VISA 撤廃に関しては、熱心な議論があったことを補足しておく。政府や上層部のみの合衆国ではなく、市民のためのアフリカ合衆国である必要があるだろう。

#### ■フロアからの発言5

- ・ 今回紹介されたネットワークは、物理的コミュニケーションをどのように図っており、調整の ための費用はどのように拠出されているか、聞きたい。
- ネットワークの求心力はどのように維持しているのか。
- ・ 通信アクセスがない団体はネットワークに参加するのが困難ではないかと考えるが、一国内に おいても生まれるそのような格差を解消するためにどのような努力がなされているか。

#### □吉田

- ・ これらの会合の中では、北からの資金をいかにして得るか、という議論が多く見られた。また 多くの NGO が、実際に北から資金を得て、ネットワーク活動を行っている。ECOSOCC は AU の資金を用いるが、外部からも資金の拠出を受け付けるということである。
- ・ 求心力については、ネットワークの事務局が試行錯誤して求心力を高めるというよりは、参加者が主体的な活動を行い、求心力を高めるという事例が見受けられた。つまり、定期的に協議会等を開催して場を作り、人々がそこに集まって会議を行い、提言書を作成し、皆で合意する、という流れである。
- ・ インターネットにアクセスできる NGO とそうでない NGO 間の、ネットワーク参加に関する格差は、実際に存在していると考える。また、首都から物理的に遠いということも影響する。

### ■フロアからの発言6

・ アフリカと日本の市民が手を取り合って、提言していくことが必要だと考える。特に来年の TICAD IV と G8 はアフリカにとって大変重要である。

# ■フロアからの発言7

・ アフリカ現地で活動しているが、ネットワークには現在参加しておらず、今後どのように関わっていくべきか考えている。HIV/AIDS 等の問題がある場合、市民社会のネットワークは形成しやすいが、農業等については中々形成しにくいと感じている。事務局が呼びかけてネットワークを形成するのではなく、参加者からのイニシアティブで出来ていくものだという指摘が出たので、そうした経験のある方にお話を伺いたい。

#### □フロアからの返答

・ ご指摘の通り、HIV/AIDS 等の問題に対しては、ネットワークが構築しやすいが、農村開発等では中々NGO が集まりにくいと感じている。どのように連携を進めていくかが課題である。

# □フロアからの返答

・ 私たちもネットワークを構築して活動している。国レベル、地域レベルでネットワークを構築しているが、各国における開発メカニズムに対して、ネットワーク NGO がどのように関わることができるか、例があれば教えて頂きたい。

#### □フロアからの返答

・ このような大きなネットワークについて議論するのは、アフリカの歴史で初めてのことである。 保健分野であれば、AUの保健関係のサミットが先日開かれたように、政府と市民社会が集まっ てかなりの成果を出している。国レベルで政府と市民社会をネットワークに持っていくことが 有効なのではないか。

#### ■ フロアからの発言8

目的や方法の違う団体が一つにまとまって政府に提案するのは、非常に難しい。これから今回のような勉強会のようなものを開き、どういうことができるのか検討するような分科会があれば良いと思う。

#### ■ガーナ大使

NGO は ODA を現場で効果的に適応できると思うので、NGO から提言を行うことは非常に良いことである。アフリカの市民社会にゴッドファーザーのような人がいれば、よりスムーズに行くのではないか。G8 サミットや TICAD IV の後は、日本の市民社会にとって、よりアフリカを支援しやすくな

るであろう。

# 【5. 附則:プレゼンテーション資料】

# パン・アフリカ的市民社会ネットワーク 構築の現状

~AU市民社会サミット参加報告~

(特活)TICAD市民社会フォーラム 吉田美樹

| 6・7月のガーナ市民社会会合日程(一部) |   |                                     |  |
|----------------------|---|-------------------------------------|--|
| 月日                   | 会合  | 主催団体                                |  |
| 6/19~21              | AU-CSO Pre-Summit Forum                       | CIDO                                |  |
| 6/22, 23             | Continental Conference                        | Ghana AU Civil<br>Society Coalition |  |
| 6/25                 | Pan African Civil Society Debate              | Ghana AU Civil<br>Society Coalition |  |
| 6/25                 | G-CAP Forum on Trade and Regional Integration | G-CAP Africa                        |  |
| 6/27                 | Day of Solidarity in Zimbabwe                 |                                     |  |
| 6/29                 | Pan-Africa STOP EPA's<br>People's Forum       | Africa Trade<br>Network             |  |
| 7/1, 3               | Joint CSO Press Conference                    |                                     |  |
| 7/6, 7               | UN Millennium Campaign Youth<br>Forum         | UN Millennium<br>Campaign           |  |

# 本日の報告内容

- 1. AU-CSO Pre-Summit 参加報告 実施機関 ECOSSOC 概要 AU-CSO Pre-Summit 参加団体・議題
- 2. Continental Conference 参加報告
- 3. その他の会合 G-CAP Africa 概要 C-CfA概要
- 4. AU議題(連合政府)の背景と市民社会の意見

# AU-CSO Pre-Summit Forum とは

- 1. AUからCSOへの連絡がなされる場
- 2 AU通常会議で討議される議題に関してのアフリ カCSOの立場を明確にする場

実施団体: CIDO (African Citizens Directorate)

=AUの助言機関であるECOSOCC(ECONOMIC, SOCIAL AND CULTURAL COUNCIL)の事務局

# ECOSOCCとは

- 背景
- · 2005年3月:市民の声をAUの意思決定プロセス に取り入れる為に立ち上がる
- ・臨時議会設立→通常議会選挙について検討
- . 通常議会メンバーの募集開始
- ・2007年3月:臨時議会の閉会が同年12月に延期
- 現状

35カ国の250団体から通常議会メンバーへの応 募があったが、予定に即しておらず、選挙の延 期決定(2007年12月までに選挙実施)

# ECOSOCCとは(続き)

- ECOSOCC通常議会の構成団体(計150団体) 社会グループ・職業グループ・文化団体 NGO/コミュニティー団体/ボランティア団体
- 各国より:2団体
- 地域レベルで活動する団体:10団体
- 大陸レベルで活動する団体:8団体 各地域のアフリカ・ディアスポラ団体:20団体
- 職権上メンバー:6団体
- ECOSOCCの組織体制
- 通常議会
- 常設委員会
- 分野別グループ
- 権限検証委員会

# AU-CSO Pre-Summit Forum参加団体

フォーラム2日目の様子 ~計73名が参加~

# AU-CSO Pre-Summit Forum 議題

- 1日目
- · 前回のPre-Summit(2007/01)以降の進展
- ・ECOSOCCとその選挙プロセス
- · AU-EU Joint Strategy for Africa's Development
- 2日目

連合政府に関する独立討論会

• 3日目

議事録およびAU通常会議に提出する提言書の 検討

# Continental Conference とは

- 主催団体: Ghana AU Civil Society Coalition
- 参加者: 30カ国約100団体より約150名
- 議題:21世紀において加速するアフリカの統一と発展:連合政府の可能性と課題







# G-CAP Africa とは

#### G-CAP(Global Call to Action against Poverty)の一環

- \* G-CAP = NGO・労働組合・CBO・宗教グループ・若者・活動家の連合 キャンペーン。2003年に活動家Graca MachelがCIVICUS(1993年発足の国 際市民連合)の事務局長Kumi Naidooらと発案。2004年発足。
- 構成:30以上のアフリカ国別連合から成る
- 意思決定機関:Africa Facilitation Team = 国別連合・国際NGO・労働組合・宗教団体・ドナー 機関の代表から成る
- 事務局:セネガルNGO「African Network Campaign on Education for All (ANCEFA)」内
- 出資団体: Action Aid International Oxfam GB Oxfam Novib UN Millennium Campaign

# G-CAP Africa とは(続き)

#### ● 活動方針:

アフリカおよび世界の指導者に、貧困・不平等の撲滅、またMDGs達成・突破の約束を守るよう要求する

● 2007年のG-CAP Africa動員活動イベント

ケニアWorld Social Forum(1月)
Pan African Film Festival(2/3月)
International Women's Day(3月)
マリPeople's Forum(3月)
ドイツG8 Summit(6月)
International Day of the African Child(6月)
ガーナAU Summit(7月)
Midway point for the MDGs(7月)

International Day for the Eradication of Poverty (10月)

\*各国別連合もそれぞれに活動・イベントを行う

#### C-CfA運営委員会 会合

 C-CfA(Civic Commission for Africa)とは: 2007年4月に発足したパン・アフリカ的市民社会ネット ワークであり、国別代表17団体、アクター別代表4団体、 オブザーバー団体5団体から成る(現時点)



アクター別代表: 女性団体 PLWHA団体 南東部農民団体 北西部農民団体

C-CfA発足の経緯:「南の市民社会の声」を国際舞台に反映させるメカニズムがなかったことから、タンザニアNGOスタッフのZabriel Kimambo氏が提唱。TCSFが賛同し、WSFでの議論、申請書審査を経て発足。

# C-CfA運営委員会 会合(続き)

- ◆ C-CfAの活動方針: TICADをメインターゲットとし、それを通じて日本の政策・ 他のG8国政策・アフリカ各国の政策に影響を及ぼす
- C-CfAの活動目的:
   1. TICAD・G8の開発支援に関する効果に影響を与える
   2. 「People-centered governance」を促進する
- 2007年のC-CfAの活動: 来年のG8・TICADIに向けた アドボカシーペーパー 「Voices of African Civil Society」を各国/アクター 団体と共に作成・発表



C-CfA運営委員会・ガーナCSO会合の様子

# 整理:各ネットワーク間の相違と連携

- ECOSOCC:
- AUIC市民社会の声を反映するためのメカニズムで、 実際は2008年以降本格的に始動
- G-CAP Africa: 恒常的なアドボカシーのためのアライアンス
- 恒常的なアドボカシーのためのアライアンス - 0.054
- TICADをターゲットとしたアドボカシーのためのアライアンス
- 連携:

C-CfA委員団体のいくつかは、G-CAP Africa・ ECOSOCC(予定)にも入っており、連携して2008年に 取り組むことが確認されている

# AU通常会議での「連合政府」討議の背景

- · 1963年:OAU(Organization of African Unity)設立
- · 2002年:OAUからAUへ
- ・2005年:連合政府に関する特別委員会が AUにより設立
- · 2007年1月:連合政府に関する調査書がAU 通常会議で検討

# 大陸政府プロセス(暫定)

- ・2007-2009:連合政府の設立
- · 2009-2012:連合政府の機能化とアフリカ合 衆国の憲法基盤構築
- ・2012-2015:アフリカ合衆国の全体制の確立

# 「連合政府」に対する市民社会の意見

- 連合政府設立を支持
- ・連合政府は人民の政府で あるべき
- ・大陸政府は大陸市民なく して成り立たない。アフリカ



- 国家間移動で要求されるビザは撤廃すべき ・大陸統一は国家安全保障、領土不可侵、政治
- 的意思の欠如により遅れている
- ・各国元首はアフリカ連合委員会等機関に権力と 資金を渡すべき

# 「連合政府」に対する市民社会の意見(続き)

- · 各国元首はサミット後、連合政府に関する市民 協議を各国で行うべき
- · 人々への情報提供、市民協議プロセスを確定す べき
- ・市民社会組織は各国内で、連合政府に関する 情報を広め、討論を促進する義務がある
- · AU諸事に関する運営機関を国内で設立すべき
- ・ REC(Regional Economic Communities)強化、 REC間連携の重要性
- アフリカ緒政府は共通の経済政策を持つべき

# まとめ:パン・アフリカ的市民社会 ネットワーク構築の現状

- 周縁化されていた社会グループのネットワークへの統合:児童・若者(18~35歳)・ディアスポラ
- ECOSOCCの可能性
   現在の最大パン・アフリカ的市民社会ネットワーク=G-CAPアフリカ
  - →ECOSOCC始動後は当ネットワークが最大に
- 2008年に向けて
  - G-CAP Africa・C-CfAが連携しながら、ECOSOCCとも連動しつつ、効果的な提言を行うメカニズムを形成していく
- アフリカ合衆国設立に向け、パン・アフリカ的市民社会 ネットワークが重要な役割を担う

